様式Ｃ－１９

# 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２５年　６月　１２日現在

機関番号：３２６１１
研究種目：若手研究（Ｂ）
研究期間：2010～2012
課題番号：22720065
研究課題名（和文）　ミニチュア・スコアの成立と変遷

研究課題名（英文）　The Establishment of the Miniature Score and its History

研究代表者
沼口　隆（NUMAGUCHI TAKASHI）
国立音楽大学・音楽学部・准教授
研究者番号：70453529

研究成果の概要（和文）：
第一に、19 世紀におけるミニチュア・スコア成立の概要を、もっとも有名なオイレンブルク社のミニチュア・スコア・シリーズの歴史に焦点を当ててまとめた。第二に、このシリーズのレパートリーのデータベースを構築中である。これには、現在発行されている 1200 以上のスコアに加え、1909～1941 年の間に発行された 10 冊のカタログに掲載されているスコアも含まれている。表記統一やデータ重複の整理が済めば公開できる予定である。

研究成果の概要（英文）：
Firstly, the birth and establishment of the miniature score in 19th century has been summarized, with an emphasis on the history of the most famous miniature score series of the firm Ernst Eulenburg.  Secondly, a Database of the repertories of the Eulenburg Miniature Score is under construction, in which not only over 1200 titles now being published are included, but also the works in 10 catalogues between 1909 and 1941 are already input.  After some refinement with the unification of notation and rearrangement of the data in which double entries are to be found, it will be ready to be open to public.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 平成 22 年度 | 1,200,000 | 360,000 | 1,560,000 |
| 平成 23 年度 | 1,000,000 | 300,000 | 1,300,000 |
| 平成 24 年度 | 1,300,000 | 390,000 | 1,690,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 3,500,000 | 1,050,000 | 4,550,000 |

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：芸術学、芸術学・芸術史・芸術一般
キーワード：音楽学、ミニチュア・スコア、オイレンブルク、レパートリー変遷、楽譜

## １．研究開始当初の背景

### （１）ミニチュア・スコアのもつ意味

複数のパートを一目で見渡せるようにした楽譜をスコア（総譜）と呼び、持ち運び容易な小型のものを「ミニチュア・スコア」と呼ぶ。後者の誕生は、指揮などの実践的な演

奏行為を前提としていたとは考えられず、その出現は、楽譜を読み、音楽会に携行して楽譜を眺めながら音楽を聴取し、ときにはそれをピアノで試奏する新しい聴衆の誕生を前提としていたと考えられる。「スタディ・スコア」という別称は、複雑な総譜を読みこなすだけの「教養」を身につけた聴衆が音楽作品を個人的に「所有」し「研究」するようになったことを象徴的に示している。

市民的な教養の育成や、芸術の商品化は、19 世紀における芸術の在り方を考察する上で重要な観点であるにも拘わらず、ミニチュア・スコアに関する包括的な研究はこれまでになかった。レンネベルクの正味３頁強に過ぎない小論は、ミニチュア・スコアの原点とその初期の発展についていくらかの概観は与えるものの、導入的な性格を超えるものではない（Hans Lenneberg, "Revising the History of the Miniature Scores", 1988）。しかし、ミニチュア・スコアという存在には、聴取や演奏実践のあり方だけにとどまらず、演奏会システム、出版、教育などにはじまり、作品論や作品美学といった領域に至るまで、音楽作品を巡る数多の問題との深い関わりを想定できる。ミニチュア・スコアの歴史の究明は、19 世紀に端を発して現代にまで通ずる「芸術の大量生産と消費」という大きな流れへの理解を深める上で、新たな観点を提示できるであろう。

（２）レパートリー変遷の研究

今日の「クラシック」のレパートリーの骨格は、20 世紀後半のいわゆる「古楽復興」によって確立された「バロック時代」以前のレパートリーをべつにすれば、本質的に 19 世紀後半にその基礎が形作られたと考えられる。しかし、19 世紀当時の具体的なレパートリーについては、これまでに体系的な研究がない。国際的にも、特定の演奏家・演奏団体を対象とした個別的研究はあるが、演奏されていたレパートリーに対する関心はいまだ高いとは言えない。

その一方で、1990 年前後から、「クラシック音楽」における固定的レパートリーを「カノン（聖典）」として位置づけ、その権威性に焦点をあてて、様々な文化批評理論の立場から「ドイツ中心的レパートリー」「男性中心的レパートリー」「器楽中心的レパートリー」への批判が盛んに行われてきた。こうした傾向を網羅的に集約し、象徴的に示したのが論文集 *Rethinking Music*, 1999 であった。演奏実践においても、失われたレパートリーの「復興」、女性作曲家の「発掘」（一例として「女性作曲家音楽祭 2007」）といった動きが活発化した。しかし、こうした試みも「レパートリー全般」という観点に照らせば、その一部を明らかにしているに過ぎず、「復興」「発掘」されたレパートリーの過去における位置づけは必ずしも明確ではない。

19 世紀のレパートリーは、今日のそれとは明らかに異なっていた。今日の中核的レパートリーの一部が定着に時間を要している一方、長く定着していたのにある時期から姿を消した作品、当初の反響にも関わらず一定期間ののちに顧みられなくなった作品が数多くある。それらの「総体」の中から、いつ・なぜ・どのような選択が行われたのかを究明してゆくことは、我々の引き継いでいる文化的遺産の性質を見定める上でも不可欠である。こうした着眼の下、レパートリーの変容と固定化を知る上では、どのようなミニチュア・スコアがいつ発売され、いつ販売を打ち切られたのかを把握することもまた、重要な指標になると考えられる。

２．研究の目的

本研究の目的は、ミニチュア・スコアの成立過程と、その出版・販売レパートリーの歴史的変遷を明らかにすることにある。19 世紀末から現代に至る長い歴史を持ち、今なお膨大なレパートリーを維持するオイレンブルク・ミニチュア・スコアに焦点をあて、そのレパートリーの変遷を明らかにすることで、いわゆる「クラシック音楽」の「定番レパートリー」が、いつ頃からどのように形成されてきたのかについて解明する。具体的なレパートリーの変遷については、データベース化してインターネット上に公開し、国際的貢献を図る。

３．研究の方法

（１）歴史に関する面

ミニチュア・スコア成立の歴史に関しては、オイレンブルク社の社史に関する情報を中心に、文献資料の収集を行った。

（２）データベースに関する面

オイレンブルク・ミニチュア・スコアのレパートリーのデータベース化にあたっては、国立音楽大学附属図書館の所蔵データが極めて重要な役割を担った。過去のカタログに関しては、ベルリン国立図書館および大英図書館より、1909～41 年の合計 10 点のカタログの複写が入手できたため、そのデータを入力していった。

４．研究成果

（１）オイレンブルクの社史

創業二代目のクルト・オイレンブルクは、ユダヤ系であったためにナチスから迫害を受け、廃業に追い込まれて国外に逃れている。そのため、残存する資料はかなり限定されていると言って良い。

こうした前提にありながら、タイプ原稿のコピー、過去のカタログに含まれていた記述、新聞記事など、これまで参照されていなかった資料によって情報の補足ができた。また、オイレンブルクのミニチュア・スコアは、ペーンとドナジョウスキの２社のミニチュア・スコアを買収したことを起点としているが、これらの出版社についても一定の調査結果が得られた。特に後者については、大規模な事典においてすらほとんど言及されておらず、重要資料においてさえも名前の綴りに不一致が生じているが、この点に関しても資料によって確実な裏付けが得られた。

（２）データベース

オイレンブルク・ミニチュア・スコアのレパートリーのデータベースは、現在 1771 件を収録している。楽曲や作曲者の表記に不統一があり、それをデータベース上で統一するのに時間を要したが、それも大半が終了した。重複しているデータもあり、その点での整理も必要だが、これについても大きな障害は想定していない。

他方で、当該研究期間の後半になって、1960～70 年代のカタログを５冊入手することができており、さらにこの時期にはレパートリーに大きな変化があったと見られることから、その内容をどのように反映させるかが課題として残る。

さらに大きな問題として残っているのは、同一曲に関して楽譜の版が異なる場合の識別である。版の変更は明記されない場合も多く、個々の版の発行年代も明確でないことから、あらゆる版の相違を網羅的に洗い出すことは不可能に近い。まずは、編者が変更されたことが明確なケースや、版に多くの問題を抱える作品を対象として調査を進めることが今後の課題となろう。

もとより、本データベースは、それ自体が研究結果であるというよりも、それを元に様々な角度から調査・研究を行うべき性質の

ものである。特定の楽曲がある時期から出版されるようになった（出版されなくなった）という事実は、歴史的解釈を経て初めて意味を担うものにほかならない。その意味では、いわば「ワーク・イン・プログレス」の形でデータベースを早期に公開できるように努め、新たな情報の提供や既存情報の活用を呼びかけるべきであろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）

沼口 隆「オイレンブルク・ミニチュア・スコアの成立とその初期レパートリー　―ミニチュア・スコアとは何かを踏まえて―」『大学院研究年報』（国立音楽大学）、第 25 巻（2013）、１～15 頁（査読あり）。

６．研究組織
(1)研究代表者
沼口 隆　（NUMAGUCHI TAKASHI）
国立音楽大学音楽学部・准教授

研究者番号：　70453529

(2)研究分担者
該当なし

(3)連携研究者
該当なし